

エヌ・アール・アイ・セキュアテクノロジーズ株式会社

代表取締役社長 増谷 洋

本社 東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター

情報セキュリティ格付け取得企業の声 <NRIセキュアテクノロジーズ株式会社>

## セキュアファイル送受信サービス『クリプト便』運用で、最高水準の「AAAs」を取得・維持

NRIセキュアテクノロジーズ株式会社様は、お客様に情報セキュリティ・マネジメントが根付き、組織に情報セキュリティ文化が醸成されることを目標に、テクノロジーとマネジメントの両輪で、お客様が抱える情報セキュリティの課題を「ワン・ストップ」で解決するプロフェッショナル企業です。

情報セキュリティのプロ集団が提供する安心・安全のセキュアファイル送受信サービス『クリプト便』運用で、2011年に情報セキュリティ格付け最高水準の「AAAs」を取得し、現在まで維持しています。

格付けを取得する目的や効果などについて、増谷洋代表取締役社長にお聞きしました。



NRIセキュアテクノロジーズ株式会社 代表取締役社長 増谷 洋様

### 企業・組織が抱える情報セキュリティの課題を「ワン・ストップ」で解決するプロフェッショナル集団

当社は、グローバル化するビジネス環境の中で、お客様が安全な情報システムを安心してビジネスに活用し、さらなる発展を遂げていただくために、情報セキュリティの観点からのあらゆるご支援を行なっています。当社では、情報セキュリティはマネジメントとテクノロジーの両面が機能しなければ決して達成できるものではないと考え、製品やサービス単体のご提供に留まらず、情報セキュリティのソリューションをワン・ストップで提供しています。また、国内外の情報セキュリティ関連施策検討委員会等において政策提言や標準化に携わり、業界を牽引しています。私どもは、情報セキュリティのトップリーダーとして世界最高水準のプロフェッショナル集団であり続けるために、人材育成の環境づくりを最重要課題の一つとして取り組んでいます。

### ASP/SaaS型ファイル転送市場国内シェアNO.1の『クリプト便』で「AAAs」取得

情報セキュリティのプロとして、まずは社内のセキュリティを確保し、さらにガバナンスを効かせることを目的に全社でISMS認証を取得しました。そして、お客様に提供するサービスについて、情報セキュリティの堅牢性を証明する第三者評価として最適なものが、情報セキュリティ格付けであることを知り、取得は必須であると確信しました。当社の事業は、セキュアファイル送受信サービスである『クリプト便』をはじめとするセキュリティソフトウェア、情報システムの「安全」を最終目標としたマネージドセキュリティサービス、トップレベルの技術と経験を持った専門家によるテクニカル系・マネジメント系コンサルティングを3つの柱としています。今回は、ASP/SaaS型ファイル転送市場で国内シェアNO.1の実績を誇る『クリプト便』の運用で、情報セキュリティ格付けの最高レベルである「AAAs」を取得・維持しました。

### 思いにたがわない格付け取得の効果

情報セキュリティ格付けという外部機関による客観的な第三者評価を活用することにより、お客様へ安心感を提供するとともに、各種監査等にも公平な情報を提示でき、また、ご担当者様が社内の経営層へ自社のセキュリティレベルをストレートにかつ容易に説明できるようになると期待していました。実際に、想定通りの効果が得られ、大変満足しています。特に、公的機関や企業の監査・運用チェック等は、近年益々厳重に行われる傾向にあり、その対応の省力化に大いに役立てています。

クリプト便サーバは、当社グループの非常に堅牢なデータセンターで運用され、機能・性能面でも競合他社との差別化を図っています。これに加え、情報セキュリティ格付け最高水準の「AAAs」取得という事実は、当社ならではの大きなアピールポイントとして活用しています。

最高水準の格付けを取得したことは、当社のサービス・マネジメント・人材も最高水準であることが証明されたことと捉えており、その意味からも格付け取得・維持は今後も継続する方針です。

### 情報セキュリティ関連のコミュニティを融合させ系統的な活動を推進

IT業界の潮流として、今後さらにASPサービスを提供する企業が増え、需要も着実に増加していくことはほぼ間違いありません。そのような市場環境において、情報セキュリティ格付けは現在以上に付加価値のある制度にすべきと考えます。ASPサービス提供会社は、公平な第三者による客観的な評価で情報の安心・安全を示すことができ、市場獲得の優位性が確立されるようになるからです。

また、格付けを初めとする情報セキュリティに関わる各種コミュニティを融合し、利用者も提供者もWin-Winの関係となるような系統的な活動に進化させるべく、関係者との連携を図っていきたいと考えています。